

打ったんやなあ」とか(笑)。13年経たれてもその日のことはいまも鮮明に覚えておられるのです。「あの日、甲子園に行つてよかった」としみじみ思います。

**Q**「看取り」について伺います。看取りはやらないというグループホームも多いそうですが、おおわだの郷とやまぶきの郷では行っていますね。

**和田** はい。私は「介護福祉士会」という専門職団体に所属し理事をしており、他のグループホームのスタッフと話をする機会がありますが、「看取りをするだけの体制がうちではできていない」とか、「主治医が看取りに協力してくれない」というケースが多いようです。その点、うちの施設は主治医の先生も非常に協力的ですし、常駐ス

タッフに看護師もいるので、看取りができる体制になっているのです。やまぶきの郷も同じです。

**Q**他のグループホームで看取りが行えない場合、どうなるんですか？

**和田** 最期はほとんどが病院で迎えることになります。自宅に連れて帰るケースはまれです。それまで暮らしていたホームから離れて慣れない病院に移るわけですからご本人は心理的に落ち着かないだろうと思います。

**Q**おおわだの郷のデイサービス部門の強みは、どういう点にありますか？

**和田** ほかの認知症デイサービス施設では、「症状が重すぎる」とか、「スタッフが対応できるケースでない」などという理由で利用を断られるケースがけっこうあるのです。でも、うちの場合はほとんど断りません。

**Q**どうして、他の施設で受け入れ不可な人を受け入れられるのでしょうか？

**和田** 開設当初からずっと、「対応が難しい方でも、できる限り受け入れていこう」という方針からです。だからスタッフの側にも、「対応が難しい人」を受け入れることに抵抗がないのです。また、スタッフ一人ひとりが「少しでも長い時間をおおわだの郷でなんとか過ごしてもらおう」という意識を常に持っているからだと思います。

## 小規模多機能型ならではの利点

**Q**次に、「小規模多機能型やまぶきの郷」についてです。

**野村** やまぶきの郷は建物の一階がグループホームで、二階で「小規模多機能型居宅介護」を行っています。私はそのうちの小規模多機能型を担当しています。

小規模多機能型というのは、通所・宿泊・訪問介護の

三つを兼ね備えたサービスのことです。同一事業者が三つの機能を持つことから、「多機能型」と呼ばれます。

**Q**その機能を、たとえばどのように利用するのでしょうか？

**野村** いつもデイサービス(通所)で利用されている認知症の方が、「ちょっと体調が悪くなったので、今日は泊まりたい」と言われたり、ご家族から「急用ができたので、今日は宿泊にしてほしい」と要請されたり、そういう形で宿泊を利用されるケースが多いですね。

とくに一人暮らしの方は、体調が悪くなったときには自宅に帰るよりも医療面・看護面や介護面において安心して頂けると思います。

また、ご家族が働きながら家で認知症の方を介護されるケースでは、時間のしほりがなく多機能型を柔軟に利用することで、仕事がやりやすくなるという利点があります。

**Q**野村さんは、一般病院の看護師を経験されてから「やまぶきの郷」にいられたそうですね。一般病院と比べてのやりがいはどういう点にありますか？

**野村** 一般病院での看護では医療ケアが中心で、患者さんの思いを傾聴する時間をなかなか持てませんでした。こちらに来てからは、利用者さんの健康管理や生活を看護の観点からサポートし、医療との連携をはかる役割が多くなりました。

利用者さんやご家族の思いにしっかりと寄り添いながら在宅生活を問題なく維持していただけるよう支援するという、濃密な関わりにやりがいを感じます。利用者さんから「ありがとう」と言っていたことも多く、その点もやりがいにつながっています。

**Q**その「濃密な関わり」には、栄仁会ならではの面もあるのでは？

ファミリーさんの  
ご家族によく言われます  
「手厚く介護されているようで  
いつ訪問しても笑顔でいる。  
それがすごくうれしい」と。

